

ぼうしよくぶんか 紡織文化を伝える地名

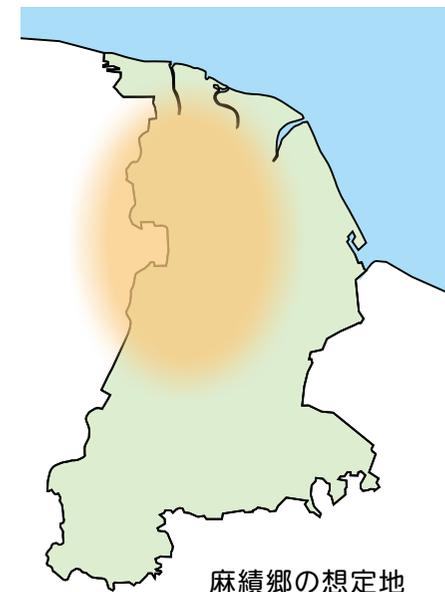
おみごう なこみ 古代地名麻績郷、中海はその中心地だった？

古代の明和町北部は「麻績郷」と呼ばれていたと考えられ、麻を紡ぎ麻布を織る麻績部といわれる古代部民が居住していたことに由来しています。

現在もこの辺りには神麻績機殿神社(松阪市)、神服織機殿神社(松阪市)があり、5月と10月の神衣祭では荒妙(麻)と和妙(絹)の織物を製作し神宮に奉納しているなど、紡織と深いかわりがある地域です。

明和町の中では、上御糸地区に中海という集落があり、これは「中麻績(なかおみ)」が訛ったものとされ、「麻績郷」の中心だった可能性があります。

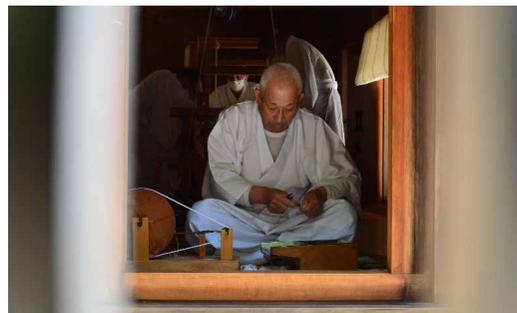
古代に麻績郷と呼ばれていた地域の一部は、室町時代には「御糸」と変化していたことが古文書の記述から確認できます。さらに、明治に入ると、御糸郷の一部は「上御糸村」、「下御糸村」となりました。今も下御糸地区養川^{ようかわ}では染織から織りまで一貫して行う御糸織物株式会社が織物生産を続けるなど、古代から紡織の文化が受け継がれていることを伝えています。



麻績郷の想定地



神服織機殿神社
(松阪市)での
神宮に奉納する
織物を製作する作業



神麻績機殿神社
(松阪市)での
神宮に奉納する
織物を製作する作業